

足立区立花保中学校
校長 村田 雅也 様

足立区立花保中学校 開かれた学校づくり協議会
会長 中里 史朗

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

今年度も、全般的に落ち着いた学校生活を送ることができた。令和6年度の入学希望者数は、5年度の一年生と同程度の数となり、本校の実態が保護者、地域に理解されてきた状態が継続している。近隣小学校へのPR活動やHPからの情報量がさらに増したことも評価できる。昨年度に立ち上げたボランティア部が、地域行事の運営にボランティアとして、積極的に関わってくれた。また、「南花畑食糧対策委員会」での取り組みとして野菜の栽培に加えて、稲作づくりに挑戦した。収穫量は少なかったが、初年度としては一応成功であると思う。次年度以降に工夫しながら継続していくことが生徒の豊かな経験体験となると考える。

地域に向けた学校行事の公開は、入学式、運動会、文化祭と無事行え、運動会・文化祭に関する生徒の参加態度や行事の完成度は今年度も素晴らしかったと地域・保護者アンケートで評価された。次年度、さらに発展した花保中を地域に公開していただきたい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

重点的な取組事項—1 学力の定着と主体的に学ぶ生徒の育成

- 区学力調査の結果では、昨年度と同程度の好結果が見られた。1年生はわずかではあるが、3教科共に区平均・全国平均正答率を上回っている。2年生は、数学で11ポイント区平均を上回っている。3年生は国語が区の平均を1ポイント下回ったが、数学で8ポイント上回った。学校全体としても教科別の平均で、昨年同様、数学が区内で上位に位置している。次年度に向けて本校の課題は、英語の「話す力」が都や区の平均を下回っているため、英語科を中心に「話す力」向上に努めてほしい。
- 一人一台端末が全員に配備されてから今年で2年目。朝学習、授業時間、自宅学習や欠席時のオンライン学習にも有効活用されている。教員は、それぞれの場面での活用方法を全員が概ね習得している。次年度も生徒の学習意欲が向上するよう、様々なアプリケーションを活用するための研修を進めていただきたい。
- 朝学習や放課後補充教室は全学年で取り組んでいるが、学習習慣が十分に定着していない生徒にも保護者と協働して家庭学習を定着させるとともに、「わかる」喜びと「できる」自信を生徒に体感させてほしい。

重点的な取組事項—2 豊かな心を育む教育活動の充実

- 生徒質問紙調査の「学校への満足度」の項目で、肯定的な回答が1年87%、2年生74%、3年90%であった。昨年の1年生84%、2年生88%、3年生91%と比較すると、2年生が「学校に対して不満感」をもっていると考えられる。学習環境等、課題解決に向けて教員組織で検討していただきたい。
- 挨拶運動ではPTA・地域の方々・担当生徒が多く参加してくれている。また93%の生徒たちが、「挨拶や学校のきまりを守ること」についてきちんと習慣化できていると回答したことは、成果であり、今後も学校・地域が連携して継続して行っていく。

重点的な取組事項—3 小・中連携、地域との連携の充実

- 今年度の小中連携は、年度当初の計画通り実施でき、目標は十分に達成できたと評価できる。地域の子ども達が健全に成長できるように両校で継続して努力してほしい。
- 小中の協議会委員・PTA同士の連携が深まり、両校の児童・生徒の育成に強く関われる環境を両校で構築してくれている。
- 特別支援学校との交流事業は、コロナ禍以前と形態を変え、交流事業を継続している。教育課程にも取り入れ、SDGsの取り組みとして実施していることが評価できる。さらに地域の様々な機関との連携・交流を進めていただきたい。

3 まとめ

コミュニティスクール3年目の今年は、地域と学校の連携に加えて、保護者との連携を強化し、三位一体となって「地域の子ども」をみんなで育てる組織づくりが目標であった。「花保中フェスタ」や「食育体験」ではPTAからもご協力いただき、連携強化の足掛かりとなった。来年も引き続き、開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会で支援し、組織が「花保中学校大応援団」となるよう様々な活動を推進していく。